

contents

- ・医療救護活動で感謝状
- ・救命救急センターに感謝状
- ・血管撮影装置が更新

- ・診療科紹介
救急科/リウマチ膠原病内科/
心臓血管外科
- ・集中ケア認定看護師 3期生入学
- ・がん看護研修会
- ・八王子まちづくりフォーラム
- ・外来診療休診のお知らせ



【杏林大学医学部付属病院】
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel. 0422-47-5511 (代表)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>

■ 大震災医療救護活動で当院に東京都から感謝状



東京都では、例年、「救急の日」および「救急週間」にあわせて、長年にわたり救急医療に協力した個人や救急医療機関及び団体に感謝状を贈呈していますが、今年には特に東日本大震災における医療救護活動に功績のあった医療機関等に対しても感謝の意を表すことになりました。

感謝状贈呈式は9月16日（金）夕、東京都第一本庁舎5階大会議場で行われ、個人1名と31の医療機関、それに6つの団体の代表が出席しました。この中で当院に対して、東京都の吉川和夫副知事が「このたびの大震災にあたって杏林大学病院は医療救護活動において多大な貢献をされました。都民を代表して深く感謝します」と感謝状を読み上げ、出席した甲能直幸病院長と医療安全管理室の加藤真人職員に手渡しました。

当院は3月11日の大地震発生以来、医師30名をはじめ、看護師・薬剤師・事務のあわせて27チーム延べ48名が被災地に出向き（9月15日現在）、医療救護活動などを行っています。

感謝状を受けて甲能病院長は「院内の医療従事者の使命感を持った熱意あふれる活動が評価され大変うれしく思います。今後も被災地の医療支援を続けていく所存です」と話しています。

感謝状贈呈式に続いて行われた「救急の日シンポジウム」では、原発事故のあった福島にたびたび出向き、消防隊員の冷却注水を陰で支えた当院高度救命救急センターの山口芳裕教授が座長を務め、東日本大震災での東京DMAT活動や医療救護活動を踏まえたこれからの災害医療のあり方を巡って関係者の間で活発な意見交換が行われました。



■ 血管撮影装置が更新されました

外来棟血管撮影室の装置が更新され、独特な外観とフレキシブルな動作を可能にしたArtis zeego（シーメンス社製）が導入されました。

Artis zeegoは、ロボットのアーム技術に着想を得て開発された多軸血管撮影装置で、患者の体位変換なしに全身をカバーできる優れた性能を有しています。8軸関節の柔軟なCアームの動きにより、多彩なポジショニングを可能にします。撮影部位や術者のワーキングポジションにとらわれない環境を有し、通常の血管撮影をはじめ、全身のインターベンション（IVR）に至るまで柔軟に対応してくれます。

また、X線検出器にFPD（Flat Panel Detector）が搭載され、高精細なデジタル画像が収集できます。Cアームが、患者の周りを180°回転しながらデータを収集する回転撮影により、血管の3D画像やCT撮影の様な任意の断面画像（CT like-image）を作成することができ、3D画像に透視画像を重複させて表示するマッピングも可能です。

今後、高精度と柔軟性を兼ね備えたArtis zeegoは、高度化するIVRに対してさらに大きな役割を果たすことが期待されます。



「救急の日」にあたる9月9日（金）、三鷹消防署・本署において救急業務協力者表彰式が行われました。この救急業務協力者表彰は、常日頃三鷹地域における救急行政に関連する活動にあたる団体・企業・医療機関に対して行われるものです。

当院からは、多数の救急患者の受け入れについて多大な貢献があったとして、高度救命救急センターを代表して大平和彦医師（代理・救急医学教室秘書）へ三鷹消防署・荒井弘署長より感謝状が贈られました。

14団体への表彰のあと、荒井署長から社会を取り巻く救急事情について説明があり、当院に対しては災害時医療において、東京DMATとして共に現地で活動してきたことに対して御礼の言葉がありました。

つづいて、清原慶子三鷹市長より挨拶があり、当院に対しては、災害時救急訓練や感染性疾患の流行が発生したと想定した場合の訓練を実施したり、救急医療業務に尽力したりしていることに感謝の言葉がありました。

■ 救命救急センターに三鷹消防署長から感謝状



診療科紹介

救急科

平成23年3月11日、未曾有の大震災が東日本を襲いました。当教室では以前より大規模災害時には災害派遣医療チーム(DMAT)を派遣して参りましたが、今回の東日本大震災に対しても、DMAT派遣調整活動

- ① 東京都運営協議会会長としてDMAT派遣調整活動
- ② 福島第一原子力発電所における東京消防庁・総務省消防庁の医療アドバイザー活動
- ③ 羽田国際空港SCU (Staging Care Unit) でのDMAT活動(広域搬送)
- ④ 宮城県気仙沼市でのDMAT活動
- ⑤ 宮城県大崎市での医療救護活動
- ⑥ 岩手県宮古市での医療救護活動

を通じて人的貢献を行いました。来年度は新病棟にヘリポートも完成する予定で、当教室では地域外からも積極的に患者さんの受け入れを行っていき予定です。

リウマチ膠原病内科

当科はANCAという血管炎標識蛋白にいち早く着目し、これまで本邦の血管炎の臨床・研究分野をリードしてきました。現在も血管炎の患者さんや難治性の膠原病患者さんが、地域や全国から紹介されてきます。更に最近では、関節リウマチ(RA)患者さんも急激に増加してきました。

当科外来に来院された患者さんはひと月1,300人前後(病棟42床)で新患は月約40名、その7割が紹介患者さんです。疾患別ではSLE、強皮症、筋炎、血管炎等様々な膠原病患者さんが来院されていますが、RA患者さんが最も多く(推定1,200名)、更に増加しています。

生物製剤等の新規RA治療が始まって以降、当科では高活動性のRA患者さんへこれらの治療を積極的に導入し(生物製剤投与症例25%以上)、良好な予後改善を得ています。RA治療では、治療効果改善のため、早期の積極的先進治療が推奨されています。当科ではこの考えを実践するため、これからも近隣医療機関と顔の見える地域連携に力を入れ、地域全体のRA治療にあたっていきます。

当科では毎年、患者さんを対象としたRA教室を行う予定です。また、10月22日に多摩リウマチ研究会(関節工コ)等を企画しています。



心臓血管外科

心臓から足先までの血管を系統的に診療

当科では心臓大血管と末梢血管を治療対象とし、循環器内科や救急科、放射線科等の協力のもと充実した設備、スタッフで高度な最先端の医療を行っています。対象疾患としては、虚血性心疾患、弁膜症、心臓腫瘍、胸部大動脈瘤(真性、解離性)、腹部大動脈瘤、肺動脈血栓症、心タンポナーデ、末梢動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞、腎不全(内シャント)、静脈瘤、深部静脈血栓症などです。これらの疾患に対し、きめ細かい検査およびエビデンスに基づいた診療計画を立てるのももちろんのこと、重症例、特に救急の場合には、迅速かつ的確な診断および手術適応判断のもと治療を行っております。

近年、低侵襲手術への社会的要請も大きく、人工心肺非使用冠動脈バイパス手術や自己弁温存弁膜症手術、ステントグラフトを使用した胸部・腹部大動脈瘤手術等を積極的に導入しております。手術成績の向上に伴い、80歳以上の高齢者にも適応を広げております。当科は地域の中枢病院として、新しい知識・技術を積極的に導入し医療レベルを高めつつ、診断から治療まで迅速に対応し、近隣施設との連携を密にした治療のあり方を模索しております。



がんセンター主催

がん看護研修会

*入場無料・申込制

当院がんセンターでは、近隣の医療機関に勤務する看護士の方々も参加できる「がん看護研修会」を開催しています。本研修会は、患者さんの身近にいる看護士が、よりよい相談相手となる生活を支えることが家族の生活になることを目的としています。また、地域みんなが支えること、この一端として看護職者のネットワークを強めることも目指しています。

今年度は去る9月2、3日にがん看護研修会・基礎編を開催、約40名の参加がありました。2日間、がん看護に関する最新の参加者交流会では「がん看護について最近の心あること」を主眼点として、研修での学び、日々の苦悩や疑問を熱く話し合ったり、日ごろの苦労などを共有したり、お互いの支え合いを深め、研修会への参加を促すことができました。



がん看護研修会開催予定

開催日時	内容
各回 18:00 - 19:30	がん看護研修(上級編)
11月10日(木)	がん化学療法と看護
12月9日(金)	がん放射線療法と看護
12月22日(木)	がん性疼痛のメカニズムと治療法
1月26日(木)	がん性疼痛の薬物療法
2月9日(木)	がん患者のリハビリ腫瘍のケア
2月23日(木)	がん性疼痛緩和における看護士の役割
3月22日(木)	がん性疼痛緩和に関する臨床での実際

重症患者看護のプロを目指して

一集中ケア認定看護師研修3期生入学

集中治療室(ICU)などに入院する重症患者さんの看護にあたる、専門知識と高い技術を身につけた集中ケア認定看護師の資格取得を目指して、当院で教育を受ける3期生24名の入学式が9月1日に外来棟10階の第一会議室で行われました。

当院は、2008年11月に集中ケア認定看護師養成機関に認定され、毎年約25名の研修生を受け入れています。3期生の入学となる今回は、全国から応募があり24名が厳しい試験に合格し入学しました。

式では、道又元裕看護部長が、狭き門を潜り抜け入学した24名に祝辞を述べるとともに「ここは教える機関ではなく、学ぶ機関です。自らが貪欲に学び集中ケア認定看護師として活躍できる人材になって欲しい」とこれから7か月の厳しい研修に身を置く研修生たちを激励しました。

また、尾野敏明主任教員は、自身の教育課程での経験談を述べ「これからの7か月は辛いこともあります。けれど『志ある者は事ついに成る』、今の志を忘れずに研修に励んでください」と言葉を送りました。

これに応え、研修生代表の堺部真弓さんが「集中治療室における患者さんや家族を支えることができるよう、看護師としてのみならず人として成長できるよう、日々励みたいと思います」と決意を誓いました。



24名の研修生は、尾野主任教員、伊藤有美専任教員の指導のもと、約7か月の研修を経て、集中ケア認定看護師の資格取得を目指します。

第5回八王子まちづくりフォーラム2011

入場無料・申込不要。皆様のご参加をお待ちしております。

テーマ：東日本大震災から学ぶこと
～震災に強いまちにするために～
日時：平成23年11月5日(土) 13:30 - 17:00
会場：八王子市学園都市センター・イベントホール(八王子スクエアビル12階)【定員216名】

外来診療休診のお知らせ

杏林学園創立記念日のため、11月11日(金)は外来診療を休診とさせていただきます。救急の際は高度救命救急センターにて診療いたします。

問合せ先：がん看護専門看護師 坂元敦子 Tel. 0422-47-5511 内線 5158